

I. ビジネス創造センター概要

I-1. 平成19年度の活動：概説

ビジネス創造センター（CBC）

センター長 海老名 誠

本研究活動報告書では、CBCの平成19年度の活動内容実績をご紹介しますが、その運営活動にあたったスタッフ教員や学外協力スタッフ等の状況は、「I-2. 主要事業分野」および「I-3. 組織」の通りです。

近年、本邦の産学官連携活動は、政府の「科学技術振興政策」方針に則り、バイオ・IT・医療技術・創薬・ものづくりなどの分野に特化しつつあると言っても過言ではありません。大学発ベンチャーも、ほぼその様な自然科学系の研究分野から誕生しています。しかし、自然科学系の研究から発芽するシーズを、社会科学系の知見をもって市場に送り出し、収益を生み出すモデルを創り上げることが大切です。自然科学系大学の研究成果と、本学の様な社会科学系大学の研究成果が融合してこそ、新しいビジネスが生み出されると信じます。

本学の様な社会科学系の大学は、マーケティングや市場調査・フィールド調査などを通じ、地元の中小企業や公的部門に対して貢献する事が重要です。平成19年度は、この様な問題意識に立って、地元小樽や札幌・北海道との産学官連携事業に積極的に取り組みました。平成19年度末には地元小樽市との間で「国立大学法人小樽商科大学と小樽市との連携に関する協定」を調印しました。

又、本学の社会貢献活動の一つに、公的機関などが組成する各種委員会などの委員などをお引き受けし、中立的立場から意見具申をする事があります。37頁以降に本学教員の各種委員会・審議会などへのコミットメントを記載しておりますが、特に本センターに関係する教員は、今後も引き続き積極的に公的活動に関与して参る所存です。

本学が所在する小樽は、年々居住人口の減少が続き、市の財政も大変苦しい状況です。しかし、一方では観光客数は平成19年度に約741万人と引き続き高い水準を維持しました。特にアジアを中心とする外国からの観光客の増加が目立ちます。本学は、小樽が国際観光都市として確固たる地位を確立するように、今後とも様々な活動を通じて支援・貢献して参りたいと思います。